

## 平成21年度第2回氷見市行政改革推進市民懇話会会議録

- 1 開催期日 平成21年8月10日(月)
- 2 開催場所 氷見市ふれあいスポーツセンター会議室
- 3 会議時間 午後4時～午後5時30分
- 4 出席委員 上野隆子、川上修、坂尻英之、田岸昌治、辻本勉、西塚友彦(七尾雅周委員代理)、姫野貞夫、前田利寛、森農朗、森節子、森本太郎、屋敷夕貴、山岸教男、山下金次郎、浦野良一、横山武(干場隆光委員代理)、藪田雅彦、垣内哲男、小堀正夫、澤武勝弘、田中英雄、嵩尾憲昭、釣賀節子
- 5 欠席委員 嶋尾正人、茶谷正清、中筋國雄、伊藤正昭、大橋昇司、佐藤泰樹
- 6 市出席者 堂故茂(市長)、棚瀬佳明(副市長)、甲井勇紀夫(企画広報室長)、金谷正和(総務部長)、東海愼一(市民部長)、江添良春(建設部長)、川田優(産業部長)、池田六義(教育次長)、干越正則(消防長)、桶元勝範(企画広報室次長)、濱井博文(総務課長)、廣瀬昌人(財務課長)、七田克行(総務課主幹)、草山利彦(財務課主幹)ほか
- 7 傍聴者 なし
- 8 案 件 (1) 配付資料の説明  
(2) 質疑応答、意見交換

### <協議資料>

- 資料1 計画期間中の財政収支見通しについて  
資料2 新行革プランの構成(案)について

9 会議録

発言内容	
会長	<p>委員各位には大変ご多用のなか、ご出席を賜りまして誠にありがとうございます。今日は平成21年度第2回目の懇話会ということになるわけでございます。懇話会にもいろいろ観点があるわけでございますけれども、この間、4月25日でしたか、市民病院のフォーラム2009が開催されましたが、私も出席させていただきましたけれども、指定管理者としての1年間を振り返って、大学側あるいは教授のご意見をいろいろ拝聴いたしとったわけですが、金沢医科大としては氷見市民病院を地域医療の勉強と深く認識されて、非常に一生懸命取り組んでおられると。人材不足という観点から特別な奨学資金、氷見枠を設けて人材の育成をしたり、あるいは看護師等の育成にも氷見に特別の配慮をしたいと、非常に力強いお言葉いただいて、私もそういった取組みに感動したわけでございますけれども、それと同時にいろいろ心配しとりましたけれども、心強く思ったわけでございます。ただ、まだまだということは大学側も認められておりまして、今後、一生懸命やるということでしたので、非常に心強く思った次第です。こうした観点から考えましても、やっぱり情報開示といいますか、市民と市当局と情報を共有するということがいかに大切かということをもた改めて認識した次第でございます。</p> <p>今日は計画期間中の財政支出見通し、もう一つは新行革プランの構成について、この二つをご審議いただくわけでございます。遠近高低おのおの同じからずという言葉がございます。一つの山を見るについてもいろんな角度から見れば、その山は低く見えたり、高く見えたり、あるいはだんだん遠ざかる山に見えたりと、いろんな見え方がしたりすると思うんですけども、そういうことから言いますと、いろんな立場の人々がこうして集まって、議論するわけでございますので、いろんな考え方、いろんなご意見があるだろうと思っております。今日はそういう意味で、自分の立場からのご意見もひとつ、活発なご意見、こういったものがたくさん出ることを期待しておりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>それでは会議を始めます。最初に市長さんからお願いしたいと思います。</p>
市長	<p>委員の皆様方にはお盆も迫って来ている気忙しいなか、会議にご出席いただきましてありがとうございます。また、天候の方も大変不順でこのまま本当の夏が来ないんじゃないかというような天気が続いております。全国各地で大変な水害が発生しております。いろんな自治体の被害が報道される度に、もちろん私どもの方で大きい被害がなくて良かったということと同時に、行政として一番大事な仕事というのは市民の生命財産を守っていくことであるということを感じさせられております。</p> <p>今日の懇話会でございますが、先月に続きまして第2回の開催となります。この間に、市の歳入の最大の項目である今年度の普通交付税が確定されました。その内容でございますが、臨時財政対策債、これは市が借金して今</p>

年度に国が全部面倒をみるというものでありますが、臨時財政対策債を含む実質の交付税については約69億4,700万円でありまして、前年度に比べ3億9,500万円、率にして6%の増額となりました。予算に計上した歳入に対しましても2億2,600万円増額になっております。この普通交付税の増額については当然、歓迎するわけでありまして、ありがたいわけでありまして、国・地方併せまして600兆を超す債務、大変厳しい国の財政状況を考えると前回の懇話会で担当の方からご説明させていただいたとおり、基本的には交付税は減少基調には変わりないものと思っています。この普通交付税の決定は、20年度決算、市の決算を踏まえ、一定の前提条件のもとで今後の財政見通しを試算いたしましたところ、前回の懇話会でもお話しさせていただいております、ここ数年が市にとってもっとも厳しい時期でありますことを申し上げておりますが、平成22年度から26年度までの5年間に約47億円の収支不足が発生すると見込まれております。このため、皆様方をお願いする新しい行革プランでは、当然、単年度の収支均衡を目指すことがまず目標になります。それから、大変厳しい時期を乗り越えるためには、事業の思い切った選択と集中ということが必要になってくると思います。そして2番目に、今ほど会長さんの方からお話がございました病院の方を公設民営化させていただいたりしております。それから、市内のあちこちで市民の力をいただいて進めることができるような市民パワーが芽生えております。そんなことを考えますと、3つ目は市民協働の推進と元気で活力ある行政の推進、こんな3点が必要なのではないかと考えます。

そのようなことをケアしながら、懸案となっております新しい病院の建設、学校の改築・耐震化など市民の安全安心を守るための事業を着実に実施したいと考えております。

本日の会議では、前回の懇話会でお話しさせていただいておりましたが、計画期間中の財政収支見通しについて、具体的な数字をお示するとともに、新しい行革プランの構成案についてご説明させていただいたうえで、委員の皆様から今後の改革の方向性等について、ご意見をいただければというところですので、今日はこの全体会が終わった後、部会も開催されるということでありまして、委員の皆さまには、長時間の会議でありますので、よろしくお願い申し上げます。

会長

ありがとうございました。それでは案件に入りますが、今、市長からありましたとおり、だいたい5時20分ぐらいまで全体会議をやりまして、その後、この場所で二つの部会をやっていただくということになっております。部会の構成につきましては、皆さんの手元に来ていると思いますけれども、ほんとに長時間に渡っての協議になりますけれども、今日はよろしくお願いしたいと思います。

それでは、初めに提出いただきました資料を一括して、事務局の方からご説明をお願いいたします。

財務課長  
総務課長  
会長

(資料1の説明)

(資料2の説明)

どうもありがとうございました。それでは、報道関係の皆様方に申し上げます。先にご案内申し上げたかと思えますけれども、取材はここまでとさせていただきますと存じます。なお、会議の結果につきましては、必要があれば、私の方から会議終了後にお話したいと思えますので、よろしく申し上げます。

それでは、ただいまの説明に対する質疑応答に入りますけれども、まず最初に、期間中の財政収支見通しにつきまして、質問等ございましたらお願いしたいと思います。

最初に収支均衡が保てる市政運営をするために、何をしたらいいのかということをお、思いつきで結構でございますので、お願いしたいと思います。大変難しい問題ですけれども、何かご意見あったらお願いします。

委員

当面の5年の計画が示されました。過去を振り返ってみますと、15年から18年にかけて58億円ほど、そのあと18年計画で21億円ほど減らしてきました。私、最初の58億円をなくした段階で、これで氷見市は正常に戻るのかなと、実は非常に甘く思っておったのですが、引き続き3カ年の計画で21億円減らすということで、そしてそれが終わった段階で、49億円ほどのご提案があったわけですが、市長、どんなもんですか。これこんなこと、この後ずっと続けていくんですかね。この市民懇話会がいい加減に解散する時期はどこらへんにあるのか、見通してみたいものがあつたら一言だけ聞かせていただきたいと思います。

市長

行革というのは、一番いい姿を模索してずっとやるものだと思うんですけども、この収支見通しについては、この間で見通しがつく予定だったと思うんですけども、この三位一体の改革が進められて、何回も説明しておりますが、三位一体の改革というのは、地方分権を受けて、地方が住民の意向を受けて、住民の気持ちに立ってできるだけ効率よく行政をやる。そのために補助金は少し我慢しましょう。交付税も少しくらい我慢しましょう。そして使い勝手のいい事業としたい。税源を移譲してもらいたい。こういうことだったんですが、結局、この間、氷見市で約7億円の交付税が減っているんですね、毎年。相当努力したんですよ、15年から。病院の公設民営化も、保育園の民営化も。職員も私が市長になったころは1,000人近くだったものが400人台になっているんですよ。それでも苦しいっていうのは、ちょっと国全体が地方をマネジメントする仕組みがおかしいんじゃないか。確かに氷見市は甘かったし、だぶついていたんですけども、ようやく人並みになってきつつある。その間の努力を国がやっぱり見ながら、この交付税をさじ加減してくれなきゃいけないのに、合併しなかったということで、思っていた以上に、必要以上にきつい交付税の抑制措置があつたことがここに表れているんじゃないかと。ちょっと、申し訳ない、言い訳気味になるわけであ

りますけれども、これは事実だと思います。まあ政権交代があるのかどうか分かりません。相当な改革があるんだろうと思います。地方が相当、反乱を起こすぐらいの空気も出ております。どういう結果になろうと、地方分権の方へ舵が切られるんじゃないかと思いますが、その分だけ更に創意工夫が求められる、自己責任を要求される組織体にならなきゃいけないと思われまので、どうあろうとスリムでまた知恵の出せる行政体に変わっていかなくちゃいけないと思いますので、国のくれないということに文句言ってるだけじゃなくて、その機会に機転の利く行政になるように努力をしていかないと思っています。

委員

まああの、一人市長だけの責任でないと思います。そういう状況になってきたんだと思います。分かりました。

市長

狼少年じゃないですけど、まあ普通のこの状態でいけば、借金の額、過去の債務、ふれスポだとか総合かんぱい事業、一番大きな事業で500億円の事業だったと思いますが、それを29年度まで借金が残ってたりするわけですね。それから、病院としては、病院を公設民営化して一気に退職者を出しました。3百数十名の退職金の手当で7、8年くらいは始末しなければいけない。それから、投資がもう一回控えています。病院建設だとか、広域圏のごみ処理場だとか、学校の改築だとか。そういったことが合わさって、客観的に見てもここ数年が一番厳しい。交付税云々の前に、ここ数年は乗り切らなくちゃいけない。前回の想定範囲、合併しなかったことの想定範囲内でありまですけども、想定外の部分も出てきておりますので、ここでしっかりもう一回、改革プランをたてていただいて、27年度から少なくともこんなご心配いただかなくてもやっていける、そういう体質に本当にならなくちゃいけないと思います。

会長

収支均衡ということになれば、収入を増やすか、支出を減らすか、これしかないわけですけど。

委員

両方、両方やってかんなん。前回、人員削減も市長さん、言われたとおり、雑巾絞った後、まだどうせいと言うげんと。だいたいきとる状態ですけど、まあ私らここ来とる皆さんだいたい同じだと思うが、会社経営されとる方いらっしゃいますし、私らでももう一人何役、営業もすれば経理もすれば運転手もみんな兼用でやっている現状なんで、市役所の職員の方ももっともっと兼務してもいいという自覚を持っていただければ。配置転換されてでも、何課何課という役、皆さんこなせるようになっていらっしゃる。そのための配置転換をやっていると思うんで、もっともっと一般の民間から見れば、専門職といえどもかけもちでどんどんやると意識を改革していただければ、若干、人員を減らせるかと。

それと出るのを削減するというか、歳出を削減、人件費が一番大きいと思うんで。それと入ってくる方、歳入が一番難しいと思うんですよ。私、前々回ぐらいですか、ふるさと納税、東京氷見会、近畿氷見会、何とか氷見会が

あったら、とにかく市長さんが行って、お願いして下さいよと。ふるさと納税、ひとつお願いしますと。藤子不二雄先生でも、未だにまんがを書いておられなくても、毎年、何億円かの収入があると思うんで、ぜひふるさと納税を声高にお願いして。うちの商工会議所の会頭さんも何とか氷見会というところにいっしょに行かれると思うんで、ぜひいっしょに市長さんとタッグを組んでぜひふるさと納税にご協力と、なんかパンフレット作ってもいいんじゃないかというくらいだと思います。

歳入の道を、近郷近在隔して、固定資産税が高い、水道料が高いと言われながら、皆さんそれをあえてしょうがないやろうというふうに、納税はされておるんですけど。あのごみの減量化、ごみの袋の有料化でごみが完全に半減化したと言っても過言じゃないかなと。何円のごみの袋だけど、ごみを出す時にはお金がいるんだという意識を持たせたことがごみの減量化につながったんじゃないかなと。ああいったような何か案、いいアイデアがあればいいんですが。今のところ思いつくのはなかなか、歳入の道は本当に難しいんで。私も売り上げがなくて頭絞っているんで。そうが言うて、市で儲けるような、このふれスポを使って一大イベントというか、今いろんな業界の全国大会を氷見に誘致するとか。いろんなことで氷見市が、あえて株式会社氷見市として、イベント企画会社、プロジェクトチームを作って、全国大会を誘致する。いろんな各業界がありますから、いろんな業界に声をかけて、菓子組合なら菓子組合の全国大会をぜひ氷見でやってくださいよというようなPRを兼ねて。人がたくさん集まるようなイベントをうまく企画して、その経済波及効果もあると思うんで。今現在、富山ぐらいでしか全国大会をできないと言いますか、まあ何万人規模の全国大会、全国大会なら何万人規模になりますので、宿泊とかコンベンションホールとか、いろんな設備が必要になるんで、ちょっと難しいかなと思うんで。でも、民間が一応タッグを組めば、やってやれんことはないんじゃないかなという感触はあるんで、ぜひそこらへんのふるさと納税と何かイベントと言いますが、企画していただければなというふうに思います。今、今日出て来とられる方、祇園であろうとひみまつりであろうと結構、事あるごとに駆り出される、商売片手間という感じでボランティアが忙しかったりしてらっしゃる方々ばかりで、何かにつけてことあるごとにお顔を拝見する方ばかりで、ボランティアというかいんなこと、商売以外に結構、体を使ってやっておられる・

会長  
委員

ほかに。

少し関係と言いますが、興味があるので、質問でございますが、企業立地助成金、これが22年度から3ヵ年、少し多めに歳出の方で配分してあります。将来的には、これが新たな歳入に振り変わってくるんだろうなという気持ちで見えておりました。少し、その辺を簡単にお聞かせいただいて、今回の見込みの中に、帰ってくる分が歳入に入っているのかどうか確認したく質問しました。

それともう一つ、私ども民間の収支、民間の企業の方々の収支を見る時に、必ずいっしょにバランス、貸借対照表を見ます。その流れをいっしょに見ます。この予算で47億、5カ年で収支マイナスなんです、民間の企業で当てはめると、例えマイナスでもそれを上回る資産、処分ができる資産ですとか、余力があればそんなには心配しない。その辺が私は分からないもんですから、どういう状況なのか、待ったなしの状態なのか。ここに書いてあります財政調整基金、減債基金、合わせても13、4億で、あと特定目的基金でどれだけあるのか分かりませんが、47億のマイナスがカバーできるだけあるのかどうか、その辺を分かれば簡単に教えていただければありがたいと思います。以上です。

総務部長

まず、企業立地助成金についてご説明申し上げます。今、計上してございますのは、一番大きいものは日本ゼオンさんとかオプティスさんの分が、20年度から5カ年間に渡ってお支払いするものがございます。また、コマツさん、コマツキャストックさんの方も設備投資をしておりますので、その分について計上させていただいております。その他何社か、コマツさん、日本ゼオンさんほど規模は大きくないんですが、設備投資をしております会社がございますので、それについては今回、企業立地助成金として入れさせていただいております。また、それに見合う税でございますが、これらについては国の制度がございまして、通常、3カ年ほどは免税と言いますか、固定資産税等が免税になります。ただ、それについては、地方交付税の方で、そのうち75%分は歳入として見ていただいておりますので、まだ若干、オプティスさん、コマツさんについてはもう後1、2年後から本格的に税収が入る格好になるのかなと思っております。

それから、委員さんがおっしゃった民間で言えば、試算がそうかという話でございました。今おっしゃった財政調整基金、減債基金としては13、4億円、おっしゃるとおりでございます。その外に特定目的基金というのがございます。例えば、教育文化振興基金とか、福祉基金とか、その他いくつかございます。その中で約18億ぐらいは取り崩すことが可能でなかるうかと、私ども今思っております。どうしても基金の中には、例えば国保の基金がございまして、これは皆さんの医療費の分とか、それぞれの他に融通が利かない形で、皆さんから集めさせていただいた税金等をそのまま基金として積んで医療費に充てるとか、そのような基金がございまして、そのような基金は使用できませんが、これまで少しずつ貯めてきた他の特定の目的のためにという基金等がございまして、それを今申し上げたとおり、約18億円ぐらいは使用できるんじゃないかと思っております。

また、売却できる資産ということでございますが、これまでの経験で言いますと例えば、ニチユシーサイドクラブなんかはかなり高額で民間の方にお渡ししたという経過もございまして、一般的に申し上げてなかなか市の物件が売れるというのは少のうございまして、ただ私ども、そちらの方も一生懸

命、担当課の方は努力をしております。

会長

そのほかに。

ちょっと一つ。氷見市の人口で、さっきもお話ありましたが、生産人口がものすごく減っているんですけども、今でも、だいたい月50人ほど、毎月減っているんじゃないでしょうか。この間まで、54,000人と言っていて、最近、53,000人。4月になったら100人ぐらい減っていると思いますけど、市長の6万人定住からみると寂しい結果になっているんですが、これ特に学生ですか、何が減ってるんですか。

市長

直近の数字は見えていませんが、ここ数年の人口減の動向は、社会減や自然減にウエイトがあります。産まれる人より死んで行く人の方が多い。それからかつては、社会減、就職や学校を通じてが多かったですけど、そういう傾向じゃないかと思います。今、それが同じぐらいの傾向じゃないかと思いません。また、自然減の方に動いてきているんじゃないかと思います。日本国中で人口減と言う傾向はあり、これはなかなか止められない。ならば、国あげて、少子化、子育て支援ということのできるだけ産み育てやすい環境を作っていくことが、国の柱になりつつあるのかなと。思い切ってその方向に自民党も考えていますし、民主党も手当を出す。そういう方向へ相当舵を切ったことが、どれだけ効果が出てくるのか。また社会あげて子どもを持ってる人に対してバックアップしていくということが少し大きい方向なんじゃないかと。氷見市もできるだけ、次世代育成支援行動計画の中で、少子化対策本部というのを立ち上げて、そういう人口増につながるかどうかは別にして、できるだけ子どもを持った人が育てやすい環境をまず作っていくことが将来につながっていくことがまず一つと、もう一つは、先ほど話に出したけど、氷見のあらゆる財産で交流人口を拡大していく。今、おかげさまで能越と東海北陸ができたので、ちょっと不景気でこの7月は大変苦戦していますが、相当、氷見に入ってくる人が多くなってきておりますので、これを人口減の足らざるところをカバーして、市の活力としていく。交流人口の拡大、200万人交流と言っておりますが、その辺まで来つつあるんじゃないかなと。まあ6万人定住というのは、正直、新世紀の挑戦の中でアドバラン的に挙げさせていただきましたが、何と言うか、一つのスローガンかもしれないんですけども、交流人口の拡大の方は確実に進めていきたいと考えております。

会長

特に私が危惧したのは、学生が住民票を持たずに行って、実際の人数と相当にギャップがあるんじゃないかと、これはどうですか。学生が氷見から出て、帰ってこない。そういう若い連中が住民票上はいるけど実際はいないと。そういうことがあるんだと聞きましたが、本当ですか。

企画広報室  
長

申し訳ございません。そこまでちょっと実態調査していないもんですから、はっきりしたことは言えないんですが。ただ正直言いまして、これは一般論でございますけれども、私の近くにも住民票を置いたまま行っていて、

その間は氷見にいないと。ただ、そのまま他へ行くということもあまりない。ですから、帰ってきて氷見にいればそのままですし、どこかに出て行くならその段階で完全に住民票が出て行きますので、まああまりそのへんは深刻に考える部分じゃないかなと思いますけれども。

会長  
委員

はい、そうですね。ほかに何かないですかね。

今話を聞いているとなかなか状況が難しい悪い時期のようですが、資金が不足するということは、いろいろ考えてみますと、例えば税収をどう増やすかとか、あるいは経費をどうするかということ、そういった問題を考えていきますと、税収なりが増えていく、あるいは人口が増えていくということを考えていかないといかんがかなと。そして例えばこの中に、一般行政職が定年退職で辞めていかれる方の5分の4の人数をまた一般行政職で採用することがこの中に織り込まれているということですが、ある程度、5分の4のうち例えば、今後の将来的なことも考えて、幹部候補として5分の1ぐらいは同じような待遇が必要かなと思いますが、5分の4に相当する人員については、例えばタイムシェアリングと言いますか、若い人を5分の3ですから、例えば給料を3分の1づつにすれば、3倍の人数を採用できると。そういうことから言いますと、例えば5人減った場合、1人は正職員で、3人かける3倍で9人、合計10人の戦力が市としては増えるわけですね。その方々の給料は3分の1だけでも、条件によって毎日出てきてもいいし、3日に1回という格好もいいのかもしれませんが、いずれにしても多くの人間を採用して、そういった方々が市の行政に直接、関わっていただくと。特にそういう方々、若い人を中心にすればいいと思いますが、氷見市だけでなく、広く日本全体、あるいは世界から窓を広げて、我こそはと思う方を採用して、氷見市の今後について、先ほど委員が言われましたが、いろんなイベントを企画するとか実行していく戦力、企画力とか創造力とか、市民に対して、今後、いろんな希望とか夢を具体化していく戦力として、養成して行くと。そういうふうなことをやっていかないと、なかなか、このままだと一般職の方ですといろいろ行政の方にしなきゃいけない仕事があって、なかなか現在の仕事のやり方をやるのは難しいのかなと思うんですが、そういうタイムシェアリングで、1人分の給料を3人で分け合うというようなことですね。いろいろ難しいチャレンジ精神を發揮しなければいけない。期間も3年とか5年の期間にしてですね、その後は自分で自活しなさいと。市と協力して新しい事業を起こしていくというのもいいし、そういうことも一回検討していただければどうかかなと。

総務部長

まず、税収をどう増やすかということでございますが、今私ども、総務でございまして、税務課の方で一生懸命、税収を上げるように努力いたしております。今ちょっと景気が悪くなっておりまして、去年に比べて税収がちょっと、少しづつ落ち気味になっておりますが、この間から土日も出てきて、例えば電話催告ですとか、そういうことで一生懸命、税収が落ちないように

に、また増やすように一生懸命努力しております。

それとちょっと先ほど申し遅れたんですが、さっきふるさと納税のことが出ておりました。これにつきましては、市長が出張される度にそういうお願いはさせていただいておりますので、パンフレットも作っておりますし、東京氷見会ですとか、近畿氷見会ですとか。

企画広報室  
長

申し訳ございません。ふるさと納税の件についてご説明させていただきます。平成20年の6月からふるさと納税を受けまして、氷見市ふるさと応援寄付金を作りまして、こういうふうなパンフレットを作って、いろんな所へ持たせていただいております。平成20年度につきましては、のべ146件、人数で言えば126名ですが、6,738,000円の寄附をいただいております。今、総務部長から説明ありましたけれども、東京氷見会とか京都の同郷会とか、高校の同窓会、そういうところに市長はじめ市の幹部が出まして、納税、応援寄付金のお願いをしております。ちなみに今年21年度につきましては、これまで20件ほどでして、146万ほど寄附をいただいております。市長も先頭に立ってセールスしておりますので、例えば東京氷見会の全体の3分の1ほどからいただいております。一生懸命PRに努めているところでございます。よろしくお願いいたします。

総務部長

途中になって申し訳ございません。職員の採用等について、ご意見いただきましてありがとうございます。ここに私ども、案としてお示ししてございますのは、最低ラインということでお示しをしております。これから、当然、委員の皆様にご審議いただいて、当然、私どもこれでいいと思っているわけでもございませんので、いろんなご意見をいただきながら、数字を固めて出していただけたらありがたいなと思っております。タイムシュアリングとか、いろんなご意見をいただきました。ただ私ども公務員の場合は、公務員法とかありまして、かなりそういうところで枠がある場合もございます。できるだけそこらへんは柔軟に対応できるような形を考えながら、そこらへんも当然、検討して参りたいと思っております。よろしくお願いいたします。

委員

私の意見は、私自身が矛盾を感じながら述べる意見になってきますが、この会合は、市の行政改革の会合であります。収入がないことには、なかなかない袖は振れないですね。交付税なり、そういう直接の市民税とか法人税とかが入ってこないことには、そこに回せないということになってくるわけだろうと思います。国全体のことを考えても、今、世界中で一番高い税金は、日本の法人税なんです。一番安いのは消費税。韓国や中国でも消費税10%と現在そうになっているそうですが。その消費税をこの選挙を控えて、自民党は、麻生さんは最初、段階的と言われたんですが、選挙間近になったら全然言わなくなってしまった。どうするのか、なんかうやむやになったうちに選挙戦に入っているわけですが。やはり財務省あたりでも直間比率の見直し、世界的な水準が高い所は25%ぐらいまで行っている国もあるんですの

で。そこまで行かなくても、例えば1年に1%でも上げて行くとか、そういうことをまず国がはっきり決めてしもた方がいいのではないかと。私自身が5%のがが6%にやられても、自分の懐からものを買う度に1%余計出すのは嫌です。しかし、やっぱり要求する時は、何かいろいろしてもらわんなん時は、そのお金は税收から回すんですから仕方ないかなと。例えば、日本シリーズの野球とか、巨人阪神戦なんかテレビで見とって、超満員なんですよ。景気悪いと言うてるけど、これで景気悪いがかなと思うし。また、21年度の、来年度の税收というのは、法人税あたりはバタバタに下がってくるんじゃないかと。すごい減収になるということが予想されるわけですし、そういうことで結局、何もできなきゃ、堂故市政が人気なくなるだけで、それはもう市長に気の毒だなと思うんですよ。ですから、このところの理解を、市民なり国民全体がどれだけ理解して、これだけの税金だから預金もできんわいという思いにどれだけなってくれるか。このごろ、よこせ、よこせとエゴばかりむき出しになっておりますので、そこらへんも考えていかなければならないと思います。

会長

そのほかに。先ほどから市民の協力とか、市民のパワーとか、そういったものを活用せよとか、具体的にどうすればいいか、何かアイディアはありますか。

委員

先ほどふるさと応援寄附の話が出て参りましたが、これは市内においてもそういった目的を明確にした募金活動と言いましょうか。それが行われたからすぐに財政に影響すると言うわけでないとは思いますが、やはり年月の経過して行くうちには、かなりの力になってくるでありましようし、また市民の人たちにも市の財政に関心を持っていただくということも出てくるのではないかと思います。特定目的基金となっていますが、例えば子育てに役立ててほしいという人もおいでるでしょうし、あるいは教育に寄附をしたいという人もおいでるでしょうし。ただ、寄附を募りますだけではなしに、こういった目的に、いただいたお金を使わせていただきますということを明確にする。そして、これを郵便局や銀行から振り込むとなるとなかなか行けませんので、簡便に寄附できるような、例えばコンビニで振り込むという、そういったこともできるのではないかと思います。そういう意味では、地域に寄附文化を勧める、寄附文化の振興と言いましょうか、そういったことができるのではないかと思います。氷見の人たちは、ボランティア活動に非常にこう理解もありますし、支援もしていただけます。体をかけるという活動ももちろんそうですが、やっぱり賛同を得れば寄附をしていただけたというそういう力のある地域性だと僕は思いますので、先ほど言いましたような、ぜひ寄附文化を氷見で作り上げる手立てを考えていただければ、一つの方向として設定していただけないかという思いをしております。

会長

何か今のことで、市の方で。

市長

このふるさと応援寄附というのは、10分の1だけ、税控除。あの大変



金の高い所の事業に、必要ないけど補助金高いから出そうかと安易な補助金の受入れをしていないかどうか。そのようなことも、やっぱりある面からすれば、業者のために非常にいいんでしょうけども、全体から見たらムダにならないかが、そういった細かい所まで見ていく必要があると思います。

それからもう一つ、最近、市の職員と話をしていると、予算ないからあかんわとか、そんなもん人おらんからなんあかんわとか、ノーの比重が非常に多いんですけど、ノー言わんように何かしてもらえんですかね。少ないなら少ないなりに、これだけしかないけど何かいい方法あるかとか、これだけしか人間おらんがだけど、おまえらっちゃんもいっしょにやれとか。最近、うちでやっている工事は、ほとんど材料費だけで、うちで、自治会工務店でやる事業が多いんですけど。それはそれなりにマンパワーも十分に生かしていくと。どうせ市に言うてもあかんから、おらっちゃんやらんまいかという話もかなり出てきております。そういう意味で、それをどんどん育てていく。市もそれに対して積極的に応援していただく、そういうことをやっていただきたいなど。ノーだけあんまりね。そのへん、考えてやっていただきたいと。市の職員はある程度、市の職員の常識というのがあるって、これはなかなか無理だぞとすぐ思うんでしょうけども、そうでなくて、アイデアをむしろもらって実施するのが市の職員だと、こういう具合でないとなかなか、事業そのものも、今までの常識では進まんがなかなと思うわけです。そういうわけで、隣りに部会長2人おられますけど、部会でひとつ大いに練っていただきたいと思います。

委員

時間的にこの会議が4時だと、本当に私らブルーカラーと言うか、現場出ておりますんで、どうも私だけかと思いますが、汗かいたら着替えて来んなんし、どうも4時はほんと中途半端な時間で、もうちょっと、まあこの会場、安くて駐車場広いからかもしれんけど。せめて5時ぐらいから1時間半なら1時間、ほんとは1時間ぐらいでこの会合をパッと切り上げるようにしてもらえれば一番いいんで。役所の方もこんなたくさん、各課長さん方も来られんと、まあ総務さんと経済さんと何人が来ていただければいいので。ぜひ会合の時間帯的なものと、私ら別に行革の市民に委嘱されて光栄だとは思いますが、自分の仕事も今大変ながでね、これであんまり時間を、なるべくなら夜の方がいいがですけど、それが無理ならせめて5時過ぎの会合にさせていただけるか、それとも朝の10時なら10時にしてもらってお昼までに終るとか。何かいつも言いたいけどもなかなか言えずに終わってしまい、だんだん私もストレスがたまってくるもんですから、ぜひ1回言わせてもらわんと思っと思ったんで、ぜひ時間帯的なものも考慮に入れていただいて、よろしくお願ひしたいと思ひます。

会長

はい、今また相談してみます。

この間、テレビか何かで見ておりましたら、所得が県で3対1ぐらいの開き、教育費でも一つの県で多い方から少ない方で3対1ぐらいの比率で1児

童当たりの教育費が多いと何かで見たんですけども、一人当たりのかいと出とる学校が、県がこの間のテストがいいがかと言うたら、一番悪いがね。そういうことから見ると、金をかけることが必ずしもいいがか、あるいはどんどん増えているもんだから施設の充実に金があるのか、そこらへん中身がよく分からんがですけど、いずれにしても全てが金でないということ。いろいろ知恵を出していけば、やれることもないかなと思ったわけでございまして。いろんなアイデアを練るのは役人ではダメながです。皆さん方で、これできんか検討してもらえないかという思いもございまして。ただ、ボランティア、ボランティアと言いますが、私はボランティアについて、行政が初めからボランティアをあてにして予算を組んでいるのは、ボランティアに対して非常に失礼だと思いますけれども、背に腹は代えられんがで、どんどんどんどんやっていただくというようなことでいいと思いますけども。一つそういう意味で、もっともっと市に対してものを申してもらおう。それから、市の方ではいろんな情報を全部流してもらって皆さんと情報を共有しながら、いい方向に持っていくというふうにしていただければと思います。また、会議の開催につきましては、夜やったら職員の時間外手当、あ、時間外の要らん人ばかりだな。まあ次のこともございまして、検討させていただきたいと思います。今日は長時間に渡りいろいろありがとうございました。部会の方はもう一働きしてもらわんがんですけど、よろしく願います。

市長

最後に一言だけ。発言なさってない方、たくさんおられます。それぞれしっかりした考えをお持ちの方ばかりなので、発言されないストレス、十分感じて、おっしゃりたい気持ちがびんびんこちらに伝わってきます。またしっかり、いずれかの機会でお話を聞きたいと思います。それから、何と言っても、毎回やる度に、入り用を決定できない、収入を決定できない。国が権限を持っているから。その中でこれをやりくりしなければならない。いつもそのことについてもストレスをお感じていただいているんじゃないかと思いますが、こうした会合を開いていただいたおかげで、市民の力、いろんな場面でお借りすることができるようになってきたと思いますし、何と言っても補助金の削減は、行政が言い出したら、市が、市長が言い出したら、とたんに反発するようなことも、いろんなやりくりを理解していただける市民団体が増えてきたというのは大変すごいことなんじゃないかなと思います。いずれにいたしましても、この行革をやるのが目的じゃなくて、これをやったおかげで、何か新しいことを、市にとって市民の福祉に役立つような所にお金を回していくということがこの行革にほかならないわけで、それを肝に命じてやっていかなければならない。お金を減らして何か帳尻を合わせればいいという、それでは行革ではないと思いますので、しっかり考えていきたいです。それから、会長、だちかんと言った職員がおったら、すぐ市長に電話をいただきたい。いつも、お金がないから、人手がないからということだ

---

けで、絶対断らないようにしろ、思考停止にだけはならんようにしろと、何か問題解決を図っていこうといつも、くどいくらい職員に話をしているところです。同じダメでも、いろいろ考えて、待ちましようとか、ダメですとか、そういう役所でありたいと思いますので、ぜひ電話いただきたいと思います。よろしくお願いします。

---

会長

どうもありがとうございました。委員の皆様、どうもありがとうございました。

---